

【成年女子2000米リレーA決勝】緑の帽子の青森は1走前中香澄（左）からバトンを受けようと、2走杉浦美咲（中央）が走りだす。この後、他県選手と接触して転倒するが、バトンは無事つながった＝YSアリーナ八戸



# 八学大4人娘 歓喜

成年女子2000リレー準V

銀盤

成年女子2000リレーは、八学大の先輩後輩同士で編成した青森の位に入り、念願の表彰台に立った。「八戸の皆さんの前でいい滑りを見せられて良かった。バトンパスで他選手と接触して走れず、転倒するアクシデントがあったものの、地元団体の県勢最高順位での入賞を飾り、メンバー4人は喜びを爆発させた。

「青森、行くぞ。スタート直前、1走前中香澄が声を張り上げてチームを鼓舞すると会場から大きな歓声が上がった。青森、行くぞ。スタート直前、1走前中香澄が声を張り上げてチームを鼓舞すると会場から大きな歓声が上がった。青森、行くぞ。スタート直前、1走前中香澄が声を張り上げてチームを鼓舞すると会場から大きな歓声が上がった。」

「いいスタートが切れた」という前中が3位をキープして杉浦にバトンをパスする瞬間、アクシデントが起きた。杉浦が山梨の選手と接触して転倒。会場内からは悲鳴にも似た声が上がったが、絶対にバトンをつなぐと、すぐ起き上がりバトンを受取る。前をいく岩手を必死に追った。

同じ大学で切磋琢磨してきた先輩と後輩だけに、その後のバトンパスの連携はスムーズ。バトンは3走大岩未奈美から危なげなくアンカーの鬼頭琴音へ。最高学年で最も役割を務める鬼頭は安定した滑りを見せ、大歓声の中、ゴールに滑り込んだ。

地元団体独特のフレッシュなものをとせず、2位という堂々の成績。「観客の皆さんの応援が力になった。ゴール後は4人一緒にリンクを一周。大声援に応える表情は晴れやかだった。」（須田山裕太）

## 2走転倒も必死のバトンパス



【少年男子2000リレーA決勝】青森は2走木村祐大（右）からバトンを受けた3走佐々木快彰（左）が走りたす

### 4位、遠かった“メダル圏”少年男子2000リレー

○…少年男子2000リレーの決勝に進出した青森だったが、全国の高い壁に阻まれ4位、表彰台には届かなかった。猛者が集う北海道、長野、山形と4道県

の争いだったが、強豪にスピードの違いを見せつけられた。バトンミスも重なって差はさらに拡大し、一度も“メダル”圏内に食い込めなかった。アンカー橋本芳彦（八戸西高）は「駆け引きや判断力、持久力など、全てで鍛え直す必要がある」とうなだれた。



### 無念、終盤伸びず7位少年女子2000リレー

【少年女子2000リレーB決勝】青森は、1走高山愛子（右）から2走宮下和奏（中）にバトンがつかない

○…少年女子2000リレーの青森はB決勝で終盤伸びず7位。2走宮下和奏（八学光星高）は「高校最後の団体で、何とかトップ（5位）でゴールしたかった」と悔し涙を浮かべた。

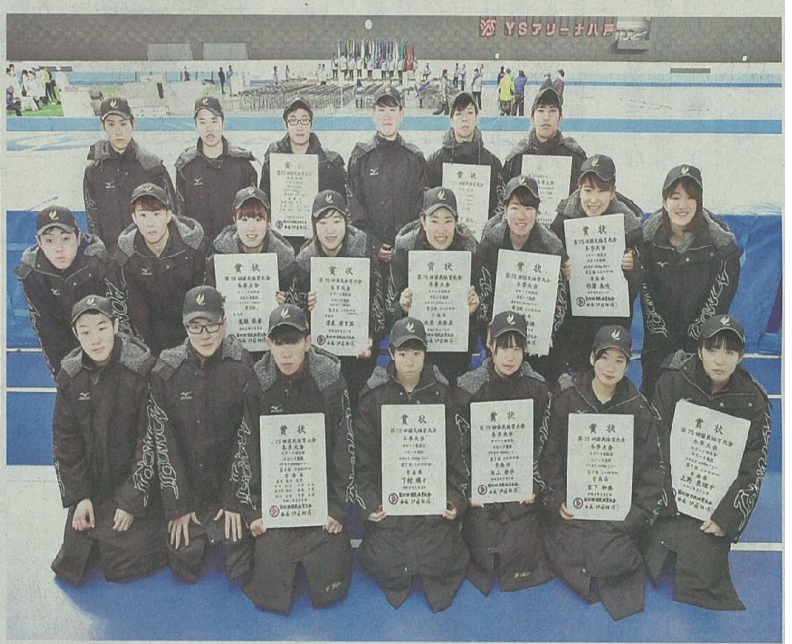
1走高山愛子（八戸西高）が軽快に飛ばして2番手に付け、「後半速い選手が多い。楽をさせてあげたい」と、宮下がコーナーでトップへ、激しい攻防が続き、アンカー村壺々（八戸西高）へバトンをつなぐと、再びトップに立ったが、ゴール直前でかわされた。下村は唇をかみ「粘れなかったのは力不足。申し訳ない」と肩を落とした。

3走上野恵理子（八学光星高）は、元団体でプレッシャーがすごかったが、全力は出し切れた」と仲間をかばった。



花束を渡される鬼頭琴音（左手前）と澤尻磨里英（左奥）

サフライスの花束  
 ○：競技終了後のYSアリーナで、国体青森県エリート選手団を引っ張る活躍を見せた八字大の澤尻磨里英と鬼頭琴音の2人に対し、今春の大学卒業を前に県選手団からねぎらいの花束が渡される。サフライスが、リンク際に集まった選手らを代表し、竹中誠也（東洋大）と山本大史（明大）が素晴らしい活躍だった。一緒に戦えて良かった。など感謝の言葉を伝える。2人は驚きと感動で涙。「うれしい、ありがとう」と大学生活4年間を振り返り、感慨深かった。



入賞を果たした青森県勢の選手ら